

教 育 長 様

| | | | |
|---------------------|---------------------|----------------------|----|
| 研究コース | 代表者 校園名 : 大阪市立本田小学校 | 校園長名 : 錢本 三千宏 | 校印 |
| グループ研究B | 電話 : 06-6581-1531 | F A X : 06-6581-3194 | |
| 校園コード (代表者校園の市費コード) | 事務職員名 : 喜連 尋滋 | | |
| 561155 | 申請者 校園名 : 大阪市立本田小学校 | | |
| | 職名・名前 : 指導教諭 今福 明 | | |
| | 電話 : 06-6581-1531 | F A X : 06-6581-3194 | |

平成31年度 「がんばる先生支援」研究支援 申請書

◇本研究の支援を受けたく、次のとおり申請します。

| 1 | 研究コース | コース名 | グループ研究B | 研究年数 | 継続研究(2年目) |
|---|-------|---|---------|------|-----------|
| 2 | 研究テーマ | 「豊かなスポーツライフを実現するための資質・能力」の育成 ～元気・感動・仲間・成長を軸に～ | | | |
| 3 | 研究目的 | 従来、学校で行われる「体育科」の授業は経験と勘で行われる傾向にあった。その結果、「体育科=体力の向上」のようにステレオタイプに捉え、「体育科」のイメージを「スポ根」に象徴されるような狭隘なイメージに捉えてしまう傾向にあると考える。しかし、本来「体育科」は体力の向上のみならず、「心と体を一体と捉え、生涯にわたって心身の健康の保持増進」をめざす教科である。新学習指導要領では、「豊かなスポーツライフを実現するための資質・能力」とう言葉で、スポーツの持つ「文化的価値」がしっかり強調されている。そこには「運動の行い方・健康・安全に対する理解」「基本的な動き方や技能」「運動や健康に関する課題の発見・解決」「楽しく明るい生活を営む態度」等多くのものが含まれているのである。そこで本研究では、新学習指導要領への移行を視野に入れ、現行の「体育科」の授業を「文化的価値」の視点から捉えなおし、児童に「豊かなスポーツライフを実現するための資質・能力」を育成することを目的とする。そして、長寿社会に生きる現在の児童にとって、生涯にわたる心身の健康の保持増進を実現するための素地作りとなるような授業を、本研究を通して提案したい。 | | | |
| 4 | 研究内容 | <p>平成29年3月新学習指導要領が公示された。今回の改訂にあたっては、育成すべき資質・能力が「①何を知っているか・何ができるか（個別の知識・技能）」「②知っていること・できることをどう使うか（思考力・判断力・表現力等）」「③どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を生きるか（主体性・多様性・協働性・学びに向かう力・人間性）」の3本柱で示されている。学習指導要領の改訂をきっかけに、各教科において必要とされる資質・能力の具体像を描き出し、それを育成し得る新しい授業のあり方や学びの姿が模索されているところである。昨年度研究を進める中で、「逆向き設計」での授業計画が新学習指導要領で求められている学び方を追究するうえで適していることが明らかになった。そこで、昨年度の研究成果を踏まながら、今年度は特に、様々な知識やスキルを統合して使いこなすことを求める課題（パフォーマンス課題）を児童自身が設定できるようにすること。また、指導者は予め評価基準（ルーブリック）を検討し、明確にしたうえでルーブリックを用いた評価することを意識した授業を行い、「逆向き設計」での授業モデルを明らかにしたい。</p> <p>スポーツの「文化的価値」は4つの方向性があると言われている。「医療性」「芸術性」「コミュニケーション性」「教育性」の4つである。これらを子ども達にも分かりやすくするために、「医療性」は「元気」、「芸術性」は「感動」、「コミュニケーション性」は「仲間」、「教育性」は「成長」という言葉で説明する。本研究グループでめざす「新しい体育科学習」は「元気・感動・仲間・成長」の4つのキーワードから構成している。以下のような授業研究を通して研究を進めていく。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○「元気」の研究は、養護教諭による「体のメンテナンスとスポーツ」、栄養教諭による「栄養と運動」の授業研究 ○「感動」「仲間」の研究は、「逆向き設計」による体育科授業の授業研究 ○「成長」の研究は、「パフォーマンス課題」「ルーブリックを用いての評価」による「自らの成長を振り返る体育科授業の授業研究 <p>これら4つのスポーツの「文化的価値」を踏まえた研究を有機的に連動させながら、体力の向上や生涯にわたる心身の健康の保持増進のために、「規則正しい生活や休養・睡眠が大切なこと」「栄養バランスの良い食事と適度な運動が大切なこと」を保護者にも啓発し、学校と家庭とが協力して「生涯にわたる豊かなスポーツライフ」「心身の健康の保持増進」が実現するよう研究を進める。</p> | | | |

| | | | | | | | | | | |
|----|----------------|---|-----------|------------|----|-----------|----|-----------|----|-----------|
| 4 | 研究内容 | また、本研究の実践は児童が自分自身の課題や成長を客観的に捉えることにもつながり、生涯にわたって学び続ける児童の育成には欠かすことのできない力である「メタ認知力」の育成にもつながる研究である。「心豊かに力強く生き抜き未来を切り開く力の向上」に寄与し得る研究としていきたい。 | | | | | | | | |
| 5 | 活動計画 | <p>4~5月・前年度の成果と課題を見直し共通理解し、理論・研究の進め方を再検討する。 - 研究員を通じ所属校に協力を呼び掛け、実践・検証ができる環境をつくる。</p> <p>6~10月・体育科で先進的な研究をしている学校・教育機関の研究授業・研究大会に参加意見交流を行い、得た知識・考え方をグループで共有し、研究を進める。 - 研究員と打合せを行い(月1回程度)、研究テーマや研究の進め方について共通理解を図り、指導案の検討・検証授業を進める。検証授業実施前後でアンケート調査等を実施し、児童の変容を確認する。</p> <p>夏休み・様々な研修会・研究会に参加し、見識を深めると共に、研究内容を広める。 - 体育科の実技研修会や理論勉強会を行い、研究員自身の実践力の向上を図る。</p> <p>9~11月・公開授業・検証授業を行い、参会者と共に授業の討議を行い研究を検証する。 - アンケート結果等から児童生徒の変容を考察し、研究の成果や課題を分析する。</p> <p>10月・指導栄養教諭による「栄養と運動」の授業を全市公開で行い、栄養教育と体育科教育との連動を図る。</p> <p>12月・養護教諭による「休養(睡眠)と運動」の授業を行い、保健教育と体育科教育との連動を図る。</p> <p>10月16日・筑波大学附属小学校より講師を招聘し「体育科公開授業・研究会」を行い、研究を広める。また、参会者や講師との討議を通して研究を深める。</p> <p>1月31日・筑波大学附属小学校より講師を招聘し「体育科公開授業・研究会」を行い、研究</p> | | | | | | | | |
| 6 | 見込まれる成果とその検証方法 | <ul style="list-style-type: none"> 先進的な体育科の学習の在り方を指導者が学ぶことにより、体育科の授業を充実させることができ、児童が基本的な動きや技能を身に付けられるようになる。 仲間と共に運動に親しみ、楽しく明るい生活を営む児童の育成を図ることができる。 各種の運動経験を通して、フェアプレーを大切にする児童の育成を図ることができる。 筋道を立てて練習や作戦について話し合うことや、身近な健康の保持増進について話し合うなど、コミュニケーションや論理的な思考力の育成を促すことができる。 保健学習や栄養指導、食育を計画的に行い、運動・食事・休養及び睡眠等についての学習を通じて、児童の健康的な生活習慣形成を図ることができる。 運動や健康に関する課題を児童自らが見付け、その解決に向けて思考し判断ができるようになる。 本研究の実践から、次期学習指導要領のキーワードである「主体的・対話的で深い学び」についての具体的な授業の在り方を示すことができ、今後の教員の授業改善や学習指導力の向上に繋がることが期待できる。 <p>○高橋らの診断的・総括的授業評価アンケート及び、形成的授業評価アンケートの実施により、児童の変容の分析・効果の検証を行う。特に、下記5つの項目について、肯定的な回答児童の割合を85%以上にする。</p> <p>「体育科授業では、みんなが楽しく勉強できます。(運動に親しむ)」 「体育科授業では、どうしたら運動が上手くできるかを仲間と共に考えながら勉強しています。(論理的思考)」 「体育科授業では、自分のめあてを持って勉強します。(めあて・課題の設定)」 「体育科授業では、いろいろな運動が上手にできるようになります。(動き・技能上達)」 「体育科授業では、ゲームや競争をするとき、ずるいことや卑怯なことをして勝とうとは思いません。(フェアプレー)」</p> <p>○児童の「運動への嗜好性」「健康や運動への関心」「運動能力」については、「全国体力・運動能力・運動習慣等調査」を使用し、効果検証を行う。</p> <p>○本研究の成果については、公開授業・研究会の参会者へのアンケート調査の結果より判断する。アンケートにはICTモデル授業の「教育センター調査用紙」を使用する。</p> | | | | | | | | |
| 8 | 研究成果の共有方法 | <p>◆研究発表【必須】 報告書提出日(2020年2月25日)までに必ず行ってください。</p> <p>○研究発表の日程・場所(予定)</p> <table border="1"> <tr> <td>日程</td> <td>令和元年10月16日</td> <td>場所</td> <td>大阪市立本田小学校</td> </tr> <tr> <td>日程</td> <td>令和元年1月31日</td> <td>場所</td> <td>大阪市立本田小学校</td> </tr> </table> <p>年間を通じて複数回の公開授業・研修会を行い、効果的な指導方法を市内外の教職員に伝え、研究内容を共有する。また、公開授業・研修会では、大学教授や筑波大学附属小学校の教諭を招聘し、指導助言をもとに参会者と討議することで研究を深化・共有する。</p> | 日程 | 令和元年10月16日 | 場所 | 大阪市立本田小学校 | 日程 | 令和元年1月31日 | 場所 | 大阪市立本田小学校 |
| 日程 | 令和元年10月16日 | 場所 | 大阪市立本田小学校 | | | | | | | |
| 日程 | 令和元年1月31日 | 場所 | 大阪市立本田小学校 | | | | | | | |
| 9 | 代表校園長のコメント | 昨年度から始まった本研究は新学習指導要領にある「豊かなスポーツライフを実現するための資質・能力」を育成する研究である。「内容面は、運動とは、健康をもたらす効果がある一方で、環境と他者に身体的に働きかけながら、自己を表現したりおもしろさを味わったりするものであること。スポーツ文化に対しては『する・みる・支える・知る』という多様な関わり方があること。また方法面は、運動技能を獲得するためには、必要な体力(筋力、柔軟性など)を備えたうえで、反復練習によって基本的な体の感覚を身に付けるとともに、自身の動きを振り返ったり、試合場面(パフォーマンス課題)の中で技を洗練するよいこと。」が昨年度の真摯な取り組みでわかってきた。本年度は、体育科学習の系統性をさらに洗練したものにし、パフォーマンス課題の工夫とルーブリックを活用した評価により、「豊かなスポーツライフを実現するための資質・能力」を客観的に捉えられるようにすることを新たな目標にしている。新学習指導要領の実現に向けて有意義な研究である。強く推薦する。 | | | | | | | | |

提出用ファイル 保 存



提出されるファイルが完成したら、こちらをクリックし保存してください。
(「**コンテンツの有効化**」を行ってください)

メールの表題およびファイル名

(グループ)AまたはBまたはS 校園名 日付

(例) A中之島小学校20190410

～浪辰橋中学校20190415

ファイル添付URL: go00702@city-osaka.eu.jp

«お願い»

フォントは、「MSゴシック」で、研究テーマは12ポイント、

日程の羅列だけでなく、主な実施内容も記入してください。

＜記入例＞

- 4月 昨年度までの課題や先行研究を確認した後、研究テーマ・目的・内容・見込まれる成果等の検討
- 6月 教員・児童への事前アンケート作成・実施・分析
- 7月 研修プログラム作成 研修（公開授業に向けた授業者、指導案の検討など）
- 8月 研究大会参加（参加後、内容の周知及び研究内容に活用）
- 9月 研究協議会（研究成果・課題について協議し改善方法を検討）

«お願い»

フォントは、「MSゴシック・10ポイント」を使用し、必ず

見込まれる成果とその検証方法を記入してください。

見込まれる成果について、それぞれ客観的な指標により、必ず数値で示すことができる検証方法を記載してください。

＜記入例＞

○学習教材に関する研究を進めることにより、子ども一人ひとりの状況に応じた学力の

向上に取り組む。

【検証方法】経年調査において、前年度と比較し、「知識・技能」に関する項目で5ポイント

上昇させる。

○保護者・地域と連携した活動や、人・自然・文化（もの）との関わりを通した豊かな

体験活動が児童の学習意欲を高め、協力してよりよい学校生活を築こうとする態度を

育てる。

【検証方法】活動の事前と事後において、児童アンケートを実施し、児童の「関心・意

欲」に関わる項目で5ポイント上昇させる。

○体験を重視した授業づくりをめざし、理科学習や学校行事等において観察・実験を充

実させることにより、理科教育の推進を図る。

【検証方法】教員アンケートの「観察・実験を取り入れた理科の学習は充実して